



志村真

「あなたとぜひ、共に過ごしたい」(ルカ福音書 19: 1~6)

1. 聖書の舞台ユダヤの中心都市エルサレムの近く、エリコの町に、ザアカイという徴税人の頭がおりました。彼はローマ帝国の出先機関として、ユダヤの民衆から税金を取り立てて「金持ち」になっていました。ここで用いられている「金持ち (Gk プルーシオス)」という単語には、「うまくやる」という意味もあります。それでは、どのように「うまくやって金持ち」になっていたのでしょうか。それには長い説明が必要なのですが、手短かに言いますと、経済的に余裕のない庶民からなけなしのお金を取り立てるには、かなり強引なやり方が取られていたようです。そして、そうした力づくのやり方を現場の徴税担当者にさせるために、彼らの給料を一種の歩合制にして、取立てた金額が少なければ手取りも少なくする、といったやり方をしていたようです。

2. 3~4節「イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見ることができなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。」

ザアカイはイエスを見ようとしてしました。しかも、走って先回りし、木に登ってまで見ようとしてしました。走ったり木に登ったりしますと、足の裏が他人に見えてしまいます。西アジアでは、それは相手への侮辱を意味するので、大人はそのようなことはしなかったと聞いています。しかし、そうしてでもイエスを見たい。好奇心ということでしょうか。それで、ザアカイは木の上からイエスを見ようとしてしました。また、「いちじく桑」は結構大きな木で、登ってしまおうと葉の間に身を隠すことができましたので、ザアカイは自分を隠れたところに置いて、距離を取ってイエスを見ようとしたと読み取れるのではないのでしょうか。

そこで問いかけが生じます。わたしは距離を取って上からイエスを見ているのか。自分の興味や関心、好奇心の範囲で、しかも距離を取って、上からイエスを見ているのだろうか、との問いかけです。

3. 5節前半「イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。」イエスは、そうした距離を取り、上から見るところに来てくださいました。そして、下からザアカイを見上げました。ご自分を低いところに置いて、彼を見やっただけです。ザアカイは先回りしたようで、実は近づいてくださったのはイエスの方でした。そして、出会ってくださいました。

5節後半「ザアカイ、今日はぜひあなたの家に泊まりたい。」以前の『口語訳聖書』では「泊

まることにしている」とありました。「私は今日、どうしてもあなたの家に滞在しなければならない」という、イエスの強い意志が込められています。

この「泊まる (Gk メノー)」という単語について、E. Schweizer 先生は次のように解説してくださっています。「ある程度の長さの滞在を意味している。」また、標準的辞書 (Walter Bauer の辞書) に依れば、「住む」という意味を持つ場合もあります。そうしますと、イエスはザアカイの家に少し長く滞在して、共に過ごそうとしておられたこととなります。

「今日はぜひ、あなたの家に泊まって共に時間を過ごさせていただきたいのです。」イエスはこのように言われたのです。一寸、立ち寄るというわけではありません。イエスがしばらく滞在して共に時間を過ごしてください。

考えてみれば、イエスは二年に過ぎない宣教活動のうち、ザアカイとどれだけの時間を共有されたのでしょうか。一日だったとすれば、全活動期間の 730 分の一、二日なら 365 分の一。イエスが本気でザアカイと付き合われたことを物語る数字です。イエスは一人の人間とかくもじっくり関わってください。

これまで私は、イエスの宣教の旅について間違った理解をしていたようです。なぜなら、今朝はこの村、午後からはあの町、といった具合に、次々と場所を移動して、癒しにしても、2、3分毎に患者を診断してまわる回診のように、ほとんど瞬時に次から次へと癒して回ったようにイメージしてきたからです。それは違いました。

4. イエスは「今日はあなたの家に滞在して、しばらく共に過ごしたい」と声を掛け、そのようになさいました。そのことがザアカイを変えました。この後の7節以下では、徴税に関わる一連の不正を止め、しかるべき賠償を約束しています。もしかしたら、彼はその仕事を離れ、別の生き方へと入って行ったのかも知れません。第二の人生が始まったのです。